



アサガオ

では 57 編も 108 編も **神よ、私の心は確かです。私は歌い、ほめたたえよう。** と、同じ訳になっています。

108 編の冒頭という言葉は **神よ、わたしの心は確かです。わたしは賛美の歌をうたいます。** と、神への信頼に立って、平安である心情を吐露しています。57 編の前半部分をカットして、57 編の 8 節から始めたということは、詩人ダビデの弱音の部分をカットしたということになるのではないのでしょうか。以下、108 編の前半の内容は 57 編の 8～15 節と同じです。

「わたしの誉れよ／目覚めよ、豎琴よ、琴よ。わたしは曙を呼び覚まそう。」／主よ、諸国の民の中でわたしはあなたに感謝し／国々の中でほめ歌をうたいます。／あなたの慈しみは大きく、天に満ち／あなたのまことは大きく、雲を覆います。／神よ、天の上に高いまし／栄光を全地に輝かせてください。

誉れ とは、最良で光栄ある、詩人の魂、全身全霊を捧げる信仰を指すのでしょうか。それを **目覚めよ** と、鼓舞し、詩人の愛する楽器をも目覚めさせ、朝の輝く光のような神の前に立つ喜びを感謝し、神に最高の賛美を捧げています。「確信、平安、賛美」を歌っています。

108 編の後半は、60 編の 7 節～14 節と全く同じですが、中継ぎのように **あなたの愛する人々が助け出されるように／右の御手でお救いください。それを我らへの答えとしてください。(7)** と、民の苦難への神の救いを求める言葉がありますので、続いて出てくるユダの部族への神の守り、敵であるモアブ、エドム、ペリシテなどへの神の裁きの言葉が力強く響きます。

包囲された町に誰がわたしを導いてくれるのか。／神よ、あなたは我らを突き放されたのか。神よ、あなたは／我らと共に出陣してくださらないのか。(12)

108 編の後半は「不安、恐怖、疑い」を歌っているのですが、108 編は信仰に立つ民の姿勢が最初に歌われているせいか、**どうか我らを助け、敵からお救いください。人間の与える救いはむなしいものです。(13)** と、人の力に頼るのではなく、**神と共に我らは力を振ります。神が敵を踏みにじってください。(14)** と、民の信仰と心意気 **神と共に我らは力を振ります** とが、最後に感じられます。

『讚美歌 21』は 209「めさめよ、こころよ」 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2011-10-11> をあげています。宗教改革以後のイギリスの讚美歌のうち、最も古い朝の歌とされています。

ジュネーブ詩編歌はオルガンとリコーダーによる重奏です。

<https://www.youtube.com/watch?v=b6z7huvHm3M&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=107>